

認定NPO法人瀬戸内オリーブ基金

2023年度年次報告書



2023.4-2024.3



瀬戸内オリーブ基金
SETOUCHI OLIVE FOUNDATION

代表あいさつ

平素は当基金の活動にご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本報告書は、当基金が2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日）に行った活動をとりとめ、みなさまからお預かりした寄付金をどのような活動に使わせていただいたかを報告するものです。

当基金は、瀬戸内の自然、つまり「ゆたかな島と海」を次の世代に引き継ぐことを目的として、瀬戸内海エリアで行われる環境保全活動にみなさまからお預かりした資金を助成するとともに、自らも環境課題に取り組んでいます。

2023年度は、当基金を継続的にご支援いただける個人、法人のサポーターを拡充する取組みを継続するほか、活動内容を適時、適切に発信する広報体制の確立を心がけました。次年度に向けては、より利用しやすい助成制度を構築し、さらに助成対象を拡大してまいりたいと考えています。

引き続き当基金への変わらぬご支援をお願い申し上げます。



理事長
岩城 裕

瀬戸内オリーブ基金のビジョンとミッション

ビジョン

次の世代へ美しいふるさとを引き継ぐ

1. 瀬戸内海エリアの環境保全と再生に取り組む
2. 環境をまもる意識を育み、自然とともに生きてきた人類の原点を見直す
3. 豊島事件の意義と教訓を伝える

ミッション

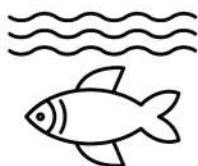
人と自然が共存する持続可能な社会を目指す

大量生産・大量消費・大量廃棄社会を循環型社会に転換する

瀬戸内オリーブ基金の活動

- 1 瀬戸内海エリアの海ごみ・プラスチックごみを減らす
- 2 瀬戸内海エリアの緑を守る・再生する
- 3 豊島事件の継承など、次世代に向けた環境教育

助成プログラムと直轄事業によって瀬戸内海エリアの環境保全・再生に尽力しています。





助成プログラム

瀬戸内海エリアの環境をまもる

海上交易で文化や産業を育み、一万年にわたって島々や沿岸の住民に海の幸をもたらしてきた瀬戸内海は、日本を代表する美しいふるさとのひとつであり、この豊かな環境を日本のふるさととして次世代に引き継ぐことを目的に設立当初から助成プログラムを展開しています。

瀬戸内海エリアで環境保全活動を行っている団体・個人に対し、活動資金を助成しています。瀬戸内の山・森・川・海や生き物を守る活動や環境学習の取り組み助成する「ゆたかなふるさと助成」に加え、これから始めるユニークな環境保護活動などに対し、原則3年間支援する「スタートアップ助成」があります。オリーブ基金では、適正な助成を実現するため、外部の有識者で構成する助成審査委員会を設置し、その検討結果をふまえて、オリーブ基金運営委員会が助成決定をしています。

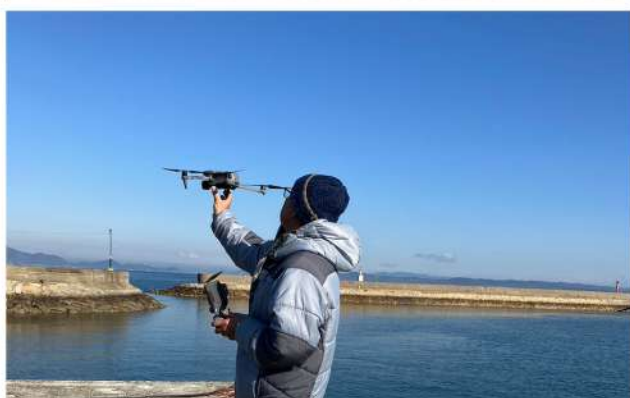
1 採択した団体とプロジェクト及び助成額

助成対象期間 2023年11月～2025年3月

府県名	団体名	プロジェクト名	主な活動の内容	助成額
岡山	特定非営利活動法人 岡山NPOセンター	探求学習を発展させ瀬戸内海の 環境を守る中高生人材を 育成する事業	瀬戸内の環境やSDGs等の探求学習成果を シェアするWebサイトの構築 中高生と企業・NPOとの意見交換会の実施	¥1,000,000
岡山	牛窓のスナメリを見守 る会	豊島周辺におけるスナメリの 生息実態を探るプロジェクト	牛窓周辺海域で確立した「牛窓式スナメリ 生息実態調査法」を活用し、牛窓以外の地 域（豊島）で調査活動を行う	¥405,420
山口	特定非営利活動法人も りのこえん	里山環境保全活動	竹林整備など地域環境の整備活動 もりのこえん敷地内の里山環境保全活動 江戸時代の土木技法で自然に負荷をかけない 里山の環境改善学習	¥710,000
兵庫	一般社団法人 淡路水交會	漁業者による森づくり	植樹活動とそこで生じる除・間伐材を活用 した柴漬けによるアオリイカの産卵床造成	¥840,000
大阪	堺市環境局 カーボンニュートラル 推進部 環境政策課	漁業体験講座	堺市周辺の海で漁船での漁業体験 専門家による水質調査の実演を見学 漁業体験で捕獲した魚を観察	¥295,000
奈良	特定非営利活動法人 さくらい菜の花 プロジェクト	里山の景観維持と育成事業	耕作放棄地に植樹した桜等の整備 継続的な里山維持と育成啓発	¥287,500
香川	特定非営利活動法人ク リーンオーシャンアン サンプル	小豆島と世界をつなぐ ビーチクリーンプロジェクト	小豆島での定期的なビーチクリーン、海外 とリアルタイムでつなぐ合同ビーチクリー ンを通して回収量の増加だけでなく海洋ご み問題への意識向上などを図る	¥460,000
香川	豊島 棚田くらぶ	唐櫃岡の 棚田再生・保全プロジェクト	豊島の棚田の耕作放棄地の再生小麦・そ ば・大豆等の栽培、季節の花の栽培	¥725,600

2 助成事例の紹介

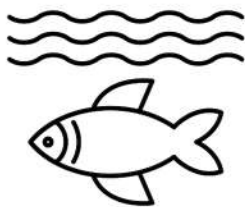
2023年度助成 牛窓のスナメリを見守る会 豊島周辺におけるスナメリの生息実態を探るプロジェクト



牛窓のスナメリを見守る会は、瀬戸内海に生息する海棲哺乳類「スナメリ」を通して自然環境保全の大切さを発信しようと2008年より岡山県瀬戸内市牛窓町で活動を行っています。活動の具体的な内容は、スナメリの観察調査、および観察会を中心としたワークショップ、各種イベントの開催などです。

瀬戸内オーリーブ基金の助成プログラムでは、これまでに蓄積した知見を活用し活動の地理的範囲を広げる最初の現地検証として、豊島周辺でのスナメリの探索に助成しています。

2年目の2023年は、牛窓で確立した「ドローン空撮によるスナメリ生息実態調査法」を活用し、豊島周辺海域の生息実態を探っています。ドローンによる個体確認は今のところありませんが、ネット上に設置した目撃情報投稿フォームには数件の情報が寄せられています。また、地域のみなさまへのヒヤリングでも、過去の情報を含めた複数の情報をいただいています。該当海域での生息実態は、すべての活動の基礎となりますので、引き続き調査を進めていきます。



ゆたかな海 プロジェクト

瀬戸内海エリアの海洋プラスチックごみを減らす

海洋プラスチックごみ問題は、豊島の産業廃棄物と同じく大量廃棄の問題であり、私たちの便利で快適な生活が持続可能なかが問われています。「豊かな島と海を次の世代に」つないでいくために、オリーブ基金は「ゆたかな海プロジェクト」を直轄事業として展開しています。

瀬戸内オリーブ基金では、2009年度から海底に大量に沈んでいる海ごみの問題に取り組んできました。スポーツごみ拾い(スポGOMI)、環境学習会の開催やボランティアとの海岸清掃など海ごみの回収と発生抑制に取り組んでいます。この事業は日本財団の助成を受けて活動をしています。

1 スポーツごみ拾い (スポGOMI)



スポGOMIとは、一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブが「スポーツ」と「社会奉仕活動」の融合による「スポーツで、街をキレイにする！」活動です。瀬戸内オリーブ基金は2019年度からスポGOMIを実施しており、2023年度は6カ所で開催し、381人が参加しました。

荒天のため予定していた香川県豊島の大会を開催できませんでしたが、大阪府での初開催など、子どもからお年寄りまで幅広い世代の方々が海ごみ問題について考えるきっかけを提供しました。スポGOMIの活動は、香川県高松市の海守さぬき会の協力をいただきました。

実施日	開催場所	主催団体	チーム数	参加人数 (人)	ごみの量 (kg)
9月3日	香川県高松市 サンポート高松エリア	株式会社パソナグループ	13	90	24.7
9月20日	香川県高松市男木町 大井海水浴場	高松市立男木小中学校	7	30	11.2
9月24日	香川県高松市男木町 (男木島灯台)	ボーイスカウト香川連盟	11	53	13.1
11月26日	愛媛県今治市 唐子浜海水浴場	ビーチクリーンしまなみ FC今治アカデミー・レディースNEXT	24	82	68.3
12月3日	香川県高松市松島町	松島地区コミュニティ協議会 スポGOMI実行委員会	27	113	65.4
2月24日	大阪府堺市 浅香山緑道河川敷	Seaguards	6	13	21.0

2 スポGOMI事例の紹介

スポGOMI2023 in 高松第一

開催日 12月3日（日） 場所 香川県高松市松島町（式典：高松第一学園）

参加 27チーム 113人 拾ったごみの量 65.4kg



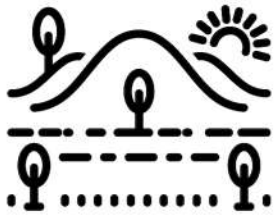
大会出場にエントリーしてから、ごみを意識するようになったという方や、しっかり作戦を練って挑んでいたチームも多くみられました。昨年度4位だったチームが、今回気合いを入れ、見事1位に！高校生だけのチームが3チームも初参加で、今回で4回目の開催ですが、リピーターチームもあり、大会がますます盛会になっていることを実感しています。

参加者のコメント

とても楽しかった。ごみを拾うことについつい夢中になってしまった。まさにスポーツの要素は十分にあると実感した。また来年も是非参加したいと思う。

地区に住む者として、ごみを意識して暮らすようになると思う。日々の生活の中で、ごみを減らすことはもちろん、自分の家の軒先清掃から無理のない範囲で頑張っていきたいと思った。来年は優勝を狙う。

たばこのごみ（吸い殻）が多かったと感じた。未だにたばこを道端にポイ捨てする人がいることが信じられない。側溝にたくさん捨てられていたことに気づき、頑張った我らチームの勝利だと思う。また来年も参加し、松島地区がもっときれいなまちになるために頑張ります。



豊島・ゆたかなふるさと 100年プロジェクト

豊島のゆたかな自然を取り戻す

豊島の産業廃棄物不法投棄によって失われた自然を再生し、次世代に引き継ぐ事業です。この場所を国立公園にふさわしい状態に回復する取組みを続けており、今後長い時間をかけて自然海岸、自然の植生に変えていくため、2021年度から「豊島・ゆたかなふるさと100年プロジェクト」として、リスタートしました。

現場は瀬戸内海国立公園の中でしたが、緑豊かな白砂青松の地であった海辺は長期間にわたり海浜や山の土砂が採取・掘削され、表土が失われています。それに加え、不法投棄によって植生がかく乱されており、国立公園とは名ばかりの状態になっています。

オリーブ基金では、岡山大学岡山大学学術研究院環境生命自然科学領域 嶋一徹氏の助言と指導と多くの住民や企業ボランティアの協力を得て、この場所を国立公園にふさわしい状態に回復する取組みを続けています。

人の手による「自然を造成する」のではなく、自然がゆっくり回復できるようにすることを目的に、植生遷移の流れに沿って、多種多様な種子を含んだ表土を撒くことで、風や鳥によって運ばれた種子が自然に発芽し定着できる環境の整備を進めています。

1 植生回復現場 見学ツアー開催



9月5日に「豊島住民向け産廃跡地と豊島植生回復調査地（岡大調査地）ツアー」を行いました。残暑厳しい中にもかかわらず、豊島の小学生17名を含む36名がご参加くださいました。

当日は調査地を歩きながら、嶋一徹氏のお話を聞きました。植生が攪乱された土地の復活には長い年月がかかること、ほったらかしでは「自然」というものは本当の意味では回復しないことを学ぶ機会となりました。

2 企業ボランティアとの 取組み



2023年度からコロナ前のボランティア活動に戻つつあります。NGP日本自動車リサイクル事業協同組合、(株)ユニクロ・ジーユー、ルーヴ菓子工房からのべ100人が参加し、海岸清掃、豊島の荒廃地の整備などを行いました。

実施日	法人サポーター名	人数
4月27日～28日	NGP日本自動車 リサイクル事業協同組合	28人
5月23日～24日	(株)ユニクロ・(株)ジーユー	27人
6月29日	菓子工房ルーヴ	14人
2月1日～2日	NGP日本自動車 リサイクル事業協同組合	9人
2月21日～22日	(株)ユニクロ・(株)ジーユー	22人



豊島事件を語り継ぐ活動

豊島事件を風化させないために

瀬戸内海に浮かぶ自然豊かな島・豊島で、1980年ごろから約10年にわたって産業廃棄物が捨てられるという事件がありました。豊島の美しい自然を取り戻すために住民は闘い、2017年3月に廃棄物は撤去されました。しかし、一度破壊された自然の回復には長い時間がかかります。瀬戸内オリーブ基金は、住民の思いを受け継ぐ活動に取り組んでいます。

豊島事件をきっかけに日本は循環型社会に転換しようとしています。しかし時間の経過とともに事件の記憶は風化し、その意義と教訓は忘れ去られつつあります。豊島事件の意義と教訓を次世代に引き継ぐために、豊島事件の紹介動画や英字パンフレットの作成、事件記録の保存や整備、資料館の改修などに取り組んでいます。この事業は地球環境基金からの助成を受けて活動しています。

1 見学者用パンフレットの英字化

豊島への外国人観光客の増加、当基金での外国人の研修の受け入れなどに対応するため、見学者用パンフレットの英字化を実施しました。パンフレットは豊島の玄関口である家浦港の港にも設置し、豊島を訪れる方々に手に取っていただいています。

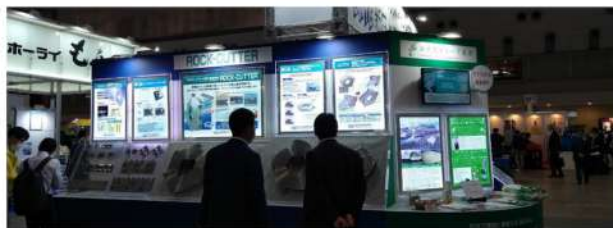
2 米務省「CLSプログラム」による米国大学生の受け入れ



7月8日に米務省「重要言語奨学金（CLS）プログラム」によるアメリカからの留学生を豊島で受け入れました。豊島美術館に行き、住民会議のメンバーの案内で産廃現場と資料館を見学しました。その後、豊島の方々へ日本語でインタビューを実施しました。事前学習で豊島や豊島の産廃問題についての下調べをしてくれているため、現場見学やインタビューでは、たくさんの質問が飛び交い、熱心に話を聞かれました。豊島の方々とお話しできてとても有意義だったという感想をいただきました。

3 展示会への出展

new環境展2023



5月24日~26日に東京ビックサイトで開催された「new環境展2023」に法人サポーターの「新日本溶業」様のブースを提供していただき、豊島事件と今についての出展をしました。お越しいただいた方の中には、豊島の産業廃棄物処理事業に関わっていた方や、以前見学をした方もおり、整地化の写真を見て驚かされていました。

エコプロ2023



12月6日~8日に東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2023」に法人サポーター「NGP日本自動車リサイクル事業協同組合」様のお力添えをいただき出展しました。循環型社会の必要性を知ってもらうために、豊島事件と自分たちが今日からできることを紹介しました。のべ3500人がブースに来場し、豊島事件を知ることが持続可能な社会を目指すヒントとなることを伝える機会となりました。



豊島のオリーブ

決意と希望の象徴のオリーブの栽培

公害調停が成立した2000年、住民たちは、二度とこのような事件を繰り返してはならないという決意を込めて、全国から寄せられた寄付金でオリーブを植樹しました。豊島のオリーブは、美しいふるさとを守るために闘った人々の熱い思いと希望の象徴です。瀬戸内オリーブ基金は、その思いをつないでいくために、住民とともにオリーブの栽培を行っています。



植樹された幼木は今では実を収穫できるまでに成長しました。オリーブの実を手摘みで、収穫後24時間以内に搾油しています。採れたオイルを原料として食用オリーブオイル、美容オリーブオイル、オリーブ石鹸を製造販売し、その売上は瀬戸内エリアの自然を守る活動に使われます。

収穫が行われる11月には、毎年、協賛企業様と協働してオリーブの収穫祭も実施しています。搾油したオリーブオイルから食用オリーブオイル・洗顔石鹸・美容オイルなどを製造・販売し、豊島のお土産として観光客の皆さんにもご好評いただいております。

2023年の収穫量は1500.1kg、搾油量は117.2kgとなりました。収穫期の10月上旬には30度を超す夏日が続いたため、高温を好まない果実の保管や搾油が大変難しい年になりましたが、今年も香川県の定めるオリーブオイル品質評価基準である「プレミアム」の評価を受けることができました。

オリーブ商品を購入して瀬戸内オリーブ基金の活動を支援

公式オンラインショップで購入
<https://teshimaolive.thebase.in/>



土庄町のふるさと納税の返礼品で
オリーブ基金のオリーブオイルをお選びいただけます

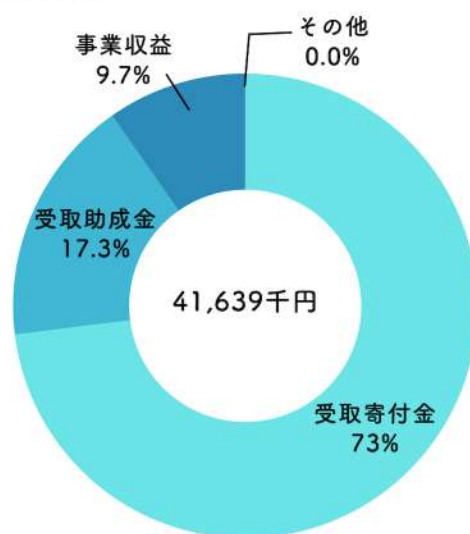
「オリーブ基金 ふるさと納税」で検索

運営報告

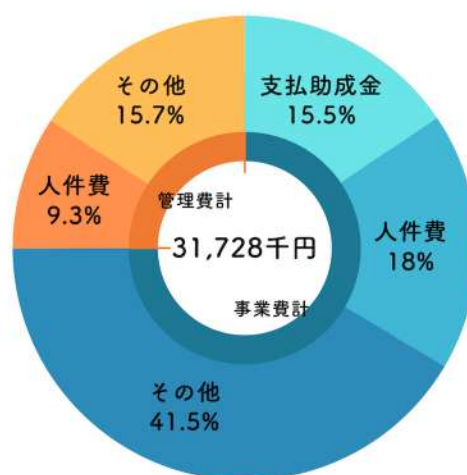
会計報告

科目		2022年度	2023年度	
経常収益	受取寄付金	31,059,139	30,407,714	
	受取助成金	4,988,000	7,183,338	
	事業収益	5,440,986	4,046,530	
	その他	158,129	2,413	
	経常収益計	41,646,254	41,639,995	
経常費用	事業費	支払助成金	2,772,757	4,925,750
		人件費	4,759,111	5,699,378
		その他	13,090,583	13,161,334
		事業費計	20,622,451	23,786,462
	管理費	人件費	3,737,164	2,948,387
		その他	5,080,003	4,993,922
		管理費計	8,817,164	7,942,309
	経常費用計	29,439,618	31,728,771	
	当期経常増減額	12,206,636	9,911,224	
	経常外収支	0	4,000	
法人税等	70,000	70,000		
当期正味財産増減額	12,136,636	9,845,224		

収益の部



費用の部



理事会・総会・運営委員会

理事会・総会開催状況

[2023年度第1回理事会]

日時：2023年6月17日

場所：梅田新道法律事務所

主な内容：2022年度事業報告・収支報告審議、2023年度事業計画・予算審議

[2023年度総会]

日時：2023年6月17日

場所：梅田新道法律事務所

主な内容：2022年度事業報告・収支報告審議、2023年度事業計画・予算審議

運営委員会開催状況

出席者：理事、監事、運営委員、企画委員

場所：梅田新道法律事務所

開催回	開催日	主な審議議題
第1回	2023年4月29日	今年度計画／個人サポーターシステム検討／WEBサイト改定・他
第2回	2023年5月20日	今年度計画及び予算／WEBサイト確認／就業規定改定・他
第3回	2023年6月17日	ボランティア受入れ／寄付者名簿管理／ゴミ収集物処理対策・他
第4回	2023年7月29日	オリーブ栽培報告／基金助成事業募集要項・他
第5回	2023年8月19日	基金助成事業／オリーブ栽培（採油所）・他
第6回	2023年9月23日	オリーブ栽培報告／ボランティア受入れ／スポGOMI開催／サポーター管理・他
第7回	2023年10月21日	オリーブ栽培業務委託／オリーブ助成先決定報告・他
第8回	2023年11月25日	オリーブ収穫報告／エコプロ展／スポGOMI開催／寄付者名簿管理／委員会委員決定・他
第9回	2023年12月23日	オリーブ栽培業務委託／スポGOMI開催／豊島事件アーカイブ化／サポーター管理・他
第10回	2024年1月27日	ゆたかな海プロジェクト／豊島事件アーカイブ化／個人・法人サポーター・他
第11回	2024年2月16日	オリーブ栽培業務委託／サポーター募集／基金助成金支払・他
第12回	2024年3月23日	オリーブ栽培業務委託／サポーター募集／基金規程・他

運営委員紹介

役名	氏名	所属
理事（理事長）	岩城 裕	弁護士（大阪弁護士会所属）
理事（副理事長）	青木 智弘	認定NPO法人やまぼうし（元・トヨタ財団、助成担当者）
理事	安藤 忠雄	建築家（安藤忠雄建築研究所）
理事	中地 重晴	熊本学園大学社会福祉学部教授
監事	新田 幸弘	株式会社ファーストリテイリング
監事	藤田 恵介	公認会計士・税理士
運営委員	十河 完也	安藤忠雄建築研究所
運営委員	シェルバ 英子	株式会社ファーストリテイリング
運営委員	兼平 裕子	前愛媛大学法文学部教授・元税理士
運営委員	岡野 雅通	電子部品製造業 会社員
運営委員	嶋 一徹	岡山大学学術研究院環境生命自然科学領域

瀬戸内オリーブ基金サポーター

オリーブ基金の活動はみなさまからのご寄付・ご支援により運営されています。お寄せいただいたご支援は瀬戸内海の美しい自然を次の世代に引き継ぐために、責任をもって瀬戸内海エリアの環境保全に取り組む団体に支援するなど、未来につないでいく活動に活用します。

個人サポーター

個人サポーター会員は、5,000円／年を1口として、瀬戸内オリーブ基金を継続的にご支援いただくプログラムです。美しい自然環境を守り、再生する活動は地道で息の長い活動になります。サポーター会費は、クレジットカードでお支払いいただけます。

法人サポーター

法人サポーターは、金銭面だけでなく、支援品や協賛企画によって瀬戸内オリーブ基金の活動をご支援いただくプログラムです。募金箱の設置や商品のご寄付等、様々な支援方法がございます。お気軽にお問い合わせください。

くわしくはこちら▼

<https://www.olive-foundation.org/donation/>



みなさまからのご寄付は
寄付金控除の対象になります



瀬戸内オリーブ基金
SETOUCHI OLIVE FOUNDATION

〒 761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦3837-4

☎ 0879-68-2911

✉ info@olive-foundation.org

🌐 <https://www.olive-foundation.org/>

📘 「瀬戸内オリーブ基金」

📷 @olive_foundation

✂ @oliveF_spoGOMI

📺 @olive-foundation